

# 奥能登入浴支援 プロジェクト速報

No. 1  
2024.2.2 8:10  
編集・発行：むさし

第1クール派遣の4人（左から勝山・杉本・須山・竹下各氏）



各氏から決意・抱負を表明

小布施ハイウェイオアシスで送出し  
鈴木県介護福祉士会長  
“健康にはくれぐれも留意して……”



青木須坂市社協事務局長  
“あまり無理せず頑張って……”



初回の派遣は入浴車・軽トラックと寝袋や飲料水等を満載した乗用車で出発

## 2.1 入浴支援隊ライングループ

2024.2.1 7:28 ホラっち  
おはようございます 🌞  
8:00 から朝礼とのことで、その後支援に入るため、現在入浴車の準備中です 🛠️  
夜中の1:45頃、強めの余震がありました 😱



目的地は七尾市 旧西岸小学校避難所  
距離約 300 km、要した時間は 6 時間 30 分

2024.2.1 7:30 むさし  
おはようございます ✨  
朝早くから寒い中大変ですが頑張ってください(ガンバレ)

## 要介護者 入浴で安らいで



県介護福祉士会など 浴槽やスタッフを被災地へ

能登半島地震の被災地支援として、県介護福祉士会などは1日、横になったまま入浴できる浴槽や湯を沸かすボイラーを積んだ車両1台と、入浴を介助するスタッフを現地に派遣する「奥能登入浴支援プロジェクト」を始めた。要介護者の高い入浴でできる機会を提供する狙い。18日までの金、土曜日に被災地で活動する予定で、1日は第1陣の4人が現地に向かった。県社会福祉協議会によると、2019年の台風19号災害時に長野市で活動した災害後、入浴を支援できる車両を被災地に届けてほしいと要請があった。対応できる車両や人員の有無を県内の市町村社協に照会、上伊那郡辰野町市社協が車両、塩尻と須坂の高市社協が運転などを担うスタッフ、県介護福祉士会は介護福祉士を派遣することになった。第1陣は石川県七尾市内でNGO関係者と合流し、活動場所を打ち合わせ。車は現地に置いたままとし、スタッフは交代で派遣する。第1陣に運転手などとして参加する塩尻市社協の介護福祉士、竹下正さん(51)は「体の具合などにより、入浴に介助が必要な被災者がいる。そうした人にリラックスしてほしい」と話している。

NGO結(沖縄県)から地震後、入浴を支援できる車両を被災地に届けてほしいと要請があった。対応できる車両や人員の有無を県内の市町村社協に照会、上伊那郡辰野町市社協が車両、塩尻と須坂の高市社協が運転などを担うスタッフ、県介護福祉士会は介護福祉士を派遣することになった。